

部活動の運営方針

1 基本方針

世田谷区教育委員会の方針に則り、生徒にとって望ましい文化やスポーツ環境を構築するという観点に立ち、部活動が以下の点を重視して、地域・学校・活動の種類等に応じた多様な形で最適に実施されることをめざす。

- ・生徒がスポーツや文化・芸術を楽しむことで学習意欲の向上、責任感・連帯感の育成を図るとともに、学校と地域が連携しながら部活動の継続的・安定的な充実を図る。
- ・知・徳・体のバランスとれた「生きる力」を育み、生徒がスポーツや文化活動等を楽しむことで、生涯にわたってスポーツや文化及び自然科学などに親しむ能力や態度の育成を図る。
- ・学校全体として部活動の指導・運営に係る体制を構築するため、部活動支援員制度の活用、部活動支援員の研修などを保護者や地域との連携により実施し、部活動の充実を支援する。
- ・生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。
- ・「熱中症予防運動指針」等を参考に、熱中症事故防止に努める。

2 適切な休養日等の設定方針

世田谷区教育委員会の方針に則り、週当たりの休養日、長期休業中の休養日、1日の活動時間については、以下を基準とする。

【休養日】

- ・学期中は、週当たり2日以上休養日を設ける。
(平日は少なくとも1日、週休日は少なくとも1日を休養日とし、休養日が確保できなかった場合は、他の日に振り替える。)
- ・長期休業中の休養日の設定についても、上に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができるとともに、運動部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間を設ける。

【活動時間】

- ・1日の活動時間は、長くとも学期中の平日及び土曜授業日では2時間程度、週休日(祝日等を含む)及び長期休業中は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的かつ効率的、効果的な活動を行う。
- ・年間を通して、最終下校時刻(校門を出る時刻)は18時00分(時間厳守)とする。
- ・定期考査の7日前からは、基本的に活動停止。この期間内の週末に公式戦等がある場合には、校長の承認を経て活動することができる。

3 会計報告について

各部活動の会計については、原則保護者が主として管理し、顧問が会計監査役とする。また、年度始めと年度末に顧問が確認した予算案及び会計報告を管理職の決裁を得て処理することとする。

令和5年度 部活動・地域連携クラブ 活動日一覧

	月	火	水	木	金	土	日
陸上	○	○		○	○	○	
野球		○	○		○	○	
水泳	○			○	○		
バレー		○	○		○	○	
男子バスケットボール		○		○	○	○	
女子バスケットボール		○	○	○		○	
サッカー	○	○		○	○	○	
硬式男子テニス		○	隔週		○	○	
硬式女子テニス	○		隔週	○		○	
卓球	○	○		○	○	○	
剣道	○	○		○	○	○	
バドミントン	○		○	○		○	
吹奏楽	○	○		○	○		
イラスト		○			○		
演劇		○		○	○		
日本文化		○			○		
I 組百人一首		○		○			
I 組イラスト		○		○			
農業	4月～10月 月・木 11月～3月 週1回						
囲碁・将棋	水曜日（月1回）						

熱中症予防運動指針

WBGT ℃	湿球温度 ℃	乾球温度 ℃		
31	27	35	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28	24	31	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
25	21	28		
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼		
21	18	24	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。
▲ ▼	▲ ▼	▲ ▼		

- 1) 環境条件の評価にはWBGT(暑さ指数とも言われる)の使用が望ましい。
 - 2) 乾球温度(気温)を用いる場合には、湿度に注意する。
湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。
 - 3) 熱中症の発症のリスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。
運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。
- ※暑さに弱い人: 体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。